パチンコ・パチスロ業界最新情報

週刊アミューズメントジャパン

Weekly Amusement Japan

2017年（平成29年）10月30日 月曜日

Weekly Amusement Japan
©2017 Amusement Press Japan Inc.
editing & publishing
Amusement Press Japan
planning & production
Amusement Promotion
printing
Four Plus One
年間購読料27,000円（税・送料込）
本紙記事の無断転載を禁じます。

編集・発行所　株式会社アミューズメント プレス ジャパン　〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-21-10 えびすアシスト5F　TEL.03-5447-0555　http://www.amusement-japan.co.jp

週刊アミューズメントジャパンは
毎週月曜日 Webアップ!
PDFでもご覧いただけます
アミューズメントジャパン　検索

今週の紙面から

海シリーズ史上最高の完成度
『CR大海物語4』新機種発表会
三洋　2面

圧巻のキセル演出
『CR真・花の慶次2』内覧会
ニューギン　2面

3作目はノーマルタイプ
『SLOT魔法少女まどか☆マギカA』
ユニバーサルエンターテインメント　2面

フジテレビと共同製作
ドラマ「ROAD TO EDEN」サミー　2面

多様な店舗づくり提案
レジャー&サービス産業展　3面

お客が安心して遊べる店
「キコーナ水戸駅南店」　3面

株式会社plus　3面

Good luck. Good life.
SANKYO　4面

本紙調査

休眠・ノンユーザー呼びこみへ
若者に響く話題性が必要

パチンコ・パチスロの休眠ユーザーやノンユーザーは、普段の生活の中でパチンコ・パチスロを意識することがあるのだろうか？ 本紙が今年1月中旬に実施した、全国の18歳～79歳の生活者への調査から休眠ユーザー、ノンユーザーの意識を探った。

過去にパチンコ・パチスロを遊技した経験がありながら、直近1年間には遊んでいない休眠ユーザーに、遊ばなかった理由を尋ねた（図）。

最も多いのは「もともと定期的に遊んでいたわけではないから」で休眠ユーザー全体の47・3%。次いで「タバコのにおい・煙が気になるから」が34・7%、「店内の音がうるさいから」が28・2%。上位3つの理由は男女で違いはなかった。トライアルで遊技したものの、継続的な遊技につながらなかった人がいかに多いかがうかがえる。

年代別に見ると、60代は他の年代に比べて「タバコのにおい・煙が気になるから」を挙げた人の割合が高い。

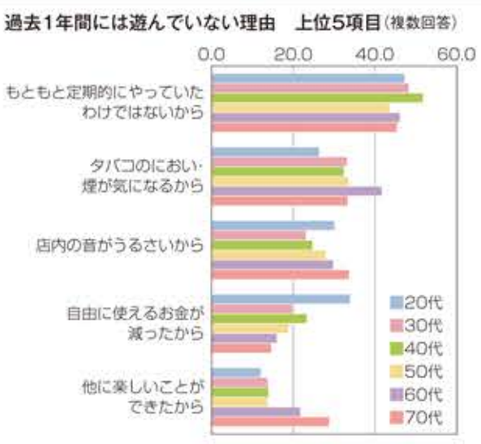
4番目に多く挙げられた「自由に使えるお金が減ったから」と答えた人の割合は年代が低いほど高い。5番目に多く挙げられた「他に楽しいことができたから」を挙げた人の割合は年代が高いほど高い。

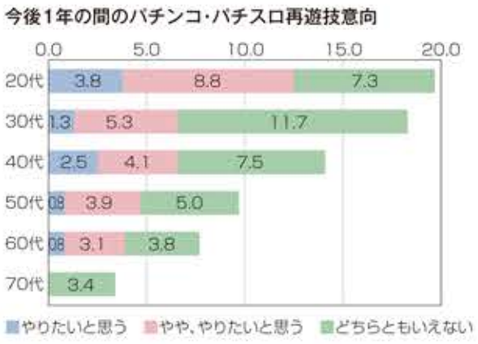
直近1年間には遊技していない休眠ユーザーが、今後1年の間に再び遊技をする可能性は非常に低い。休眠ユーザーの中で再び遊びたいと回答した人の割合は4・9%。この再遊技意向者率は年代が低いほど高く、20代では12・6%、30代および40代では6・6%。60代では3・9%に減り、70代では0%だった（図）。年代が高くなってから再び遊技してもらうのは非常に困難だと言えるため、30代～40代をいかにして遊技につなぎとめておくかが課題だ。

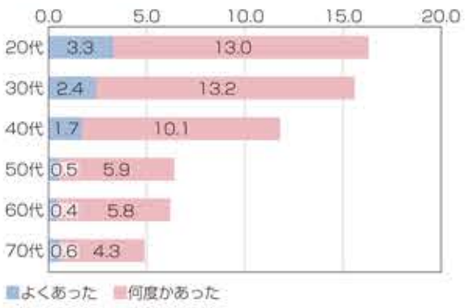
パチンコを意識する機会はほとんどない

休眠ユーザーおよびノンユーザーは過去1年の間に、街中・広告・メディア・友人知人の会話などで、パチンコ・パチスロ（お店や機械）に何らかの意識・関心が向いたことがあったのだろうか。

何らかの意識・関心が向いたことが「よくあった」と答えたのは1・4%、「何度かあった」と答えたのは8・7%。年代別に見ると、年代が低いほど、意識・関心が向いた人の割合が高い（図）。つまり、年代が上がるほど、友人知人との会話を含め、パチンコ・パチスロの情報が伝わりにくくなり、関心が伝わるような仕掛けがかねてから言われているように、遊技経験者が未経験者を誘いたくなるような、ホール内外の環境づくりが求められている。







【調査概要】

調査は市場調査会社マクロミルのインターネット調査モニターを利用して1月中旬に実施。全国を8ブロックに分け、各ブロック内で性別、年代別に18歳～79歳の人数を割付け4732人から回答を得た。集計にあたっては、実際のブロックごとの性・年代の人口構成比に合うようにウエイトバック処理を行った。

パチンコ・パチスロに意識・関心が向いた場面や状況としてあてはまるもの
（複数回答／過去1年間に遊んでいない人の中で、パチンコ・パチスロに意識・関心が向いたことがあった人）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1	友人・知人が話しているのを聞いた	テレビCMを見た	パチンコ・パチスロ店を見た	テレビCMを見た	友人・知人が話しているのを聞いた	友人・知人が話しているのを聞いた
2	テレビCMを見た	友人・知人が話しているのを聞いた	友人・知人が話しているのを聞いた	友人・知人が話しているのを聞いた	パチンコ・パチスロ店を見た	テレビCMを見た
3	パチンコ・パチスロ店を見た	パチンコ・パチスロ店を見た	テレビCMを見た	テレビ等の報道を見た	テレビCMを見た	パチンコ・パチスロ店を見た

情報経路は年代によってやや異なるものの、友人・知人から入ってくる話が大きなウェイトを占めることが確認できた。

遊技参加者を増やすために必要なことは、第1に、20代・30代のトライアル遊技者の再来店率を高めること。第2に、30代・40代の参加者を離反させないこと。第3に、遊技をしていない若年層に友人知人からの口コミで話題も起こらないと考えられそうだ。

では、過去1年間にパチンコ・パチスロに何らかの意識・関心が向いたのは、どのような場面や状況だったのか。休眠ユーザーおよびノンユーザーの全体では、最も多いのは「友人・知人が話しているのを聞いた」で4割～6割。次いで「テレビCMを見た」「パチンコ・パチスロ店を見た」。

研修の一幕。NEXUSはLGBTのアライ（支援者）企業だと表明している

NEXUSがダイバーシティ研修
性的少数者の理解深める

NEXUS（群馬県高崎市）は10日、本社でダイバーシティ研修を実施。LGBT施策の推進をサポートするアウト・ジャパン（東京都千代田区）の後藤純一取締役と屋成和昭執行役員を招いて、企業がLGBTに関して取り組む意義などを学んだ。

LGBTはレズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの頭文字をとった語で、性的マイノリティの総称の一つ。NEXUSは彼らが安心して働ける職場づくりを目的とし、人事部や人財開発部、CS推進部、営業推進部の11人が研修に参加。LGBTを理解するための基本知識、彼らを取り巻く状況、顧客対応、先行事例などを学習した。

講師の後藤取締役は、「LGBTに関する研修は日本ではあまり行われていない。社会からホモフォビア（同性愛嫌悪）がなくなるためにも、多くの方にアライ（支援者）になってもらいたい」などと話した。

文学館に100万円寄贈
山本ビル

左から山本ビルの江夏秀則副社長、山本社長、三浦綾子記念文化財団の石川千賀男理事長

旭川市でホールや飲食店など12店舗を展開する山本ビル（旭川市）は9月29日、三浦綾子記念文化財団に100万円を寄贈した。同財団が運営する三浦綾子記念文学館（旭川市）が来年20周年を迎えるにあたり計画している分館建設を支援するため。

同財団によると、分館建設費への法人からの寄付は本件が初めてで、10月3日に山本ビルの山本淳一社長に感謝状を贈った。

山本社長は「当社は今年で創立65周年を迎える。その記念に、地元の文化活動を応援したいと考えた」と話した。

元アルバイトも優遇採用
マルハン

マルハンは11日、正社員として働いていた元社員を対象としていた「カムバック採用」を元アルバイト社員にまで拡大した。

「カムバック採用」は、育児や介護、転職や学業を理由に退社した従業員向けの再入社制度。それまでの能力や知識、経験が考慮され、応募者は新規雇用よりも良い労働条件で受け入れられる可能性がある。2016年11月から現在までに、約40人の元正社員から応募があった。

マルハンはこの制度を元アルバイトにまで拡大することで、即戦力の確保が容易になることを期待している。また、既存従業員に向けては一度離職して戻ってこられる安心感を醸成できるとしている。

対象となるのは正社員、アルバイトともに現在から5年以内に退職した者。正社員は勤続経験2年以上、アルバイトは研修期間を終了しているなどの条件がある。

パチスロ設置比率ペナルティを決議
同友会

日本遊技産業経営者同友会は18日に開催した理事会で、12月1日時点で新基準に該当しないパチスロ遊技機の設置比率が30%を超えている営業所を有する会員企業に対し、会員資格停止処分とすることを決議した。処分期間は、設置比率が30%以下になるまで。

駐車場特別警戒
四国遊商

全商協所属の四国遊技機商業協同組合は猛暑が予想された6月から9月末までの期間、幼児の車内放置を防ぐ駐車場特別警戒活動を実施した。

中国遊商の組合員はホールスタッフと協力。取引先の遊技場を訪問する際に「中国遊商特別警戒」と書かれた腕章を付け、幼児が車内に放置されていないか駐車場の見回りを行った。

救命救急講習開催
中部遊商

全商協所属の中部遊技機商業協同組合は9月22日、組合会議室で救命救急講習を開催した。今年で7回目。

講習会には応急手当研修センターから講師2人を招聘し、組合員22人が参加。心肺蘇生法やAEDの使用方法、気道に入った異物の除去方法、止血法など緊急時に役立つ救命処置の流れをビデオと実技講習から学んだ。